



こどももおとなも楽しめる企画第3弾は、
『ピーター・パン』の前日譚を描く音楽劇！



入野自由

豊原江理佳

宮崎吐夢

櫻井章喜



演出 ノゾエ征爾



芸術監督 小川絵梨子



11月14日（土）10:00～ 一般発売 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ
新国立劇場 制作部演劇 広報担当 関
TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5709

 **新国立劇場**
NEW NATIONAL THEATRE TOKYO
<http://www.nntt.jac.go.jp>

作品について

『ピーター＆ザ・スターキャッチャー』は、2004年に米国で出版、日本でも『ピーターと星の守護団』として知られている小説を基に劇作家リック・エリスが戯曲化した作品です。有名なあの『ピーター・パン』の前日譚として、ある孤児の「少年」が、海賊たちと戦う冒険を繰り広げ、どうして大人にならない永遠の少年「ピーター・パン」になったかが描かれています。新国立劇場で2014年に上演された『ご臨終』を演出し、近年目覚ましい活躍のノゾエ征爾を演出に迎え、日本初演でお届けします。ブロードウェイでは2012年に開幕し、同年にトニー賞9部門にノミネート、5冠を勝ち取ったヒット作です。

あらすじ

ビクトリア朝時代の大英帝国。孤児の少年（のちのピーター・パン）は仲間とともに、卑劣な孤児院の院長により「ネバーランド号」に売られてしまう。船内で出会ったのは、好奇心旺盛な少女モリー。モリーは、父アスター卿と同じく「スターキャッチャー」として、世界制覇を企む奴らから、地球に落ちてきた星のかけら「スタースタッフ」の威力を遠ざける使命を帯びていた。宝がつまっているトランクを狙う黒ひげたち海賊は船に襲いかかり、少年とモリーたちはトランクとともに海中に放り出されてしまう。やがて不思議な島モラスク島にたどり着いた彼らには、更なる冒険が待ち受け、そして.....。

翻訳 小宮山智津子からのメッセージ

この作品は劇作家リック・エリスが、小説「ピーター＆ザ・スターキャッチャーズ」（デイヴ・バリー／リドリー・ピアスン作）を基に、新たに創作した劇です。スターキャッチャーというのは、おそろしい力をもつ星のかけらを悪の手から守る人たち。小説では、少年ピーターとスターキャッチャー修行中の少女モリーが、海賊たちを相手に大冒険をくり広げます。話の設定はなんと、100年前に書かれたJ.M.バリーの原作よりも前。なので、ピーターは最初、まだ空を飛ぶこともできません。

そして本作では、その大枠を残しつつ、登場人物を大胆にふくらませ、演劇ならではの趣向を盛り込んだ新しい物語が展開します。たとえば劇の冒頭で、ピーターには名前がありません。ひとりぼっちの少年が、自分の名前を得て、あのピーター・パンになるまでが、少年の心の内側からも見えてきます。そしてこの劇の大きな特徴は、俳優全員が自分の役のほか船乗りや海賊、観客に直接語りかけるナレーターにもなること。全員が一団となって物語をぐんぐんすすめていきます。まさに、ワンチーム！ 見ている人たちも一緒にワクワクしたり笑ったりほっとしたり、そんな体験になったらいいなと思っています。

演出 ノゾエ征爾からのメッセージ

「ええ波に乗って」

温水洋一さんと江波杏子さん。

私の新国立劇場での創作は、このお二人から始まりました。始まりましたというか、今のところ新国立劇場における僕の全てです。まだその一本のみだったので。

モリス・パニッチの『ご臨終』。究極の二人芝居。それはそれはお二人は素晴らしかったわけですが、まさか江波さんが故人になってしまわれるとは思っていませんでした。

ある時、本番前の楽屋にて、江波さんからある言葉をいただきました。それは私を支え続けてくれる言葉の一つとなっています。

『ピーター＆ザ・スターキャッチャー』。あの『ピーター・パン』の前日譚にして、トニー賞5冠という、既に栄冠と評判の数々を手に行っている作品ではありますが、国も変われば、言葉も変わり身体も変わる。まるで新たな冒険となることでしょう。今のこの日本で活動する俳優たちの身体性を真実として、ピーターたちが乗る船を思いきって新たに漕ぎ出したいです。きっと「ええ波」が、まだ見ぬ景色へと後押ししてくれることでしょう。

スタッフプロフィール

作：リック・エリス (Rick ELICE)

初めてブロードウェイの舞台を観たのは3歳の時。その晩、彼は演劇の世界で働くことを夢に見た。そして19歳から現在までこの仕事に携わっている。1982年から1999年までセリーノ／コインのクリエイティブディレクターとして、『コーラスライン』から『ライオンキング』まで300以上のブロードウェイ作品の広告キャンペーンに携わり、1999年から2009年まではウォルト・ディズニー・スタジオのクリエイティブコンサルタントを務めた。2004年、マーシャル・ブリックマンと共に、共同執筆したミュージカル、『ジャージー・ボーイズ』はデス・マカナフ演出の元、トニー賞、グラミー賞、そしてオリヴィエ賞のミュージカル作品賞を受賞。他に『Turn of the Century』や『アダムス・ファミリー』などがある。コーネル大学にて学士、イェール大学演劇大学院にて芸術学修士を取得、またアメリカン・レパートリー・シアターの創立会員としてハーバード大学でティーチングフェローを務めた。

音楽：ウェイン・バーカー (Wayne BARKER)

2000年から2006年までデイル・エドナ・エバレッジと共に活動し、ブロードウェイ作品『DAME EDNA: BACK WITH A VENGEANCE』(2005)と『ALL ABOUT ME』(2010)では作曲と出演もしている。ニューヨーク・シアター・ワークショップのコンポーザー・イン・レジデンスでもあり、新作ミュージカルのためのアーティスティック・アソシエイトを務めている。主な作品にシアトル・レパートリー・シアター『三銃士』『十二夜』、ガスリーシアター『グレート・ギャツビー』など。『ピーター＆ザ・スターキャッチャー』では、ドラマ・デスク・アワードとトニー賞のオリジナル楽曲賞にノミネートされた。

翻訳：小宮山智津子 (KOMIYAMA Chizuko)

三百人劇場/劇団昴、CWAJ 海外女子奨学金を得てロンドンシティ大学院留学、1997年より世田谷パブリックシアターで学芸、企画制作にたずさわる。現在はフリーで、高齢者施設や障害者施設で上演する移動劇場「@ホーム公演」、「子どもとおとなのための◎読み聞かせお話の森」の企画制作を続けている。

戯曲翻訳に、『バリターク』『レディエント・バーミン』『マーキュリー・ファー』『夢の劇』『溺れた世界』『ヒステリア』『兵士の物語』『白い病気』など。2003年『ピッチフォーク・ディズニー』『ささやく声』『宇宙でいちばん速い時計』『ヒカリ・カガヤク』の翻訳で第10回湯浅芳子賞受賞。

演出：ノゾエ征爾 (NOZOE Seiji)

脚本家・演出家・俳優。劇団「はえぎわ」主宰。1995年青山学院大学在学中に演劇を始める。1999年、劇団「はえぎわ」を始動。以降、全作品の作・演出を手掛ける。2012年、第23回はえぎわ公演『〇〇トアル風景』で第56回岸田國士戯曲賞受賞。外部公演をはじめ、映画、ドラマにも、脚本家、演出家、俳優として多数参加。

10年から世田谷区内の高齢者施設での巡回公演（世田谷パブリックシアター@ホーム公演）を続けている。16年にはさいたまスーパーアリーナで高齢者1600人出演の、1万人のゴールドシアター2016『金色交響曲～わたしのゆめ、きみのゆめ～』の脚本、演出を手掛けた。近年の演出作品に、東京芸術祭2019野外劇『吾輩は猫である』、音楽劇『トムとジェリー～夢よう一度～』、パルコプロデュース『命売ります』、世界ゴールド祭2018GAC『病は気から』など。新国立劇場では、『ご臨終』を手掛けている。

出演者プロフィール

少年（ピーター）：入野自由（IRINO Miyu）

1988 年生まれ、東京都出身。

2001 年『千と千尋の神隠し』において「ハク」役に抜擢される。以後は順調に声優としての知名度と人気を獲得。また声優だけでなく、舞台活動や映画やドラマにも出演、歌手としてライブを行うなど、精力的に活動中。

代表的な舞台出演作として『屋根の上のヴァイオリン弾き』『宝塚 BOYS』『今度は愛妻家』『タイタニック』『グッドバイ』『Gang Showman』がある。声優としての主な出演作は『機動戦士ガンダム 00』シリーズ 沙慈・クロスロード役、『深夜!天才バカボン』バカボン役、『おそ松さん』松野トド松役、『言の葉の庭』タカオ役、『聲の形』石田将也役、『さよならの朝に約束の花をかざろう』エリアル役などがある。

モリー：豊原江理佳（TOYOHARA Erika）

1996 年、ドミニカ共和国生まれ、大阪府出身。

2008 年『アニー』でデビュー。単身 NY でのレッスンなどを経て'16 城田優演出ミュージカル『アップル・ツリー』に出演。主な出演作品として『>（ダイナリィ）』『父の黒歴史』『マリウス』『2.8 次元』『絶唱サロメ』『Whose playing that “ballerina”？』『時子さんのトキ』、ミュージカル『5DAYS』『タイタニック』『オン・ユア・フィート』『ソーホー・シンダース』など。最近では MBS ドラマ『ホームルーム』にレギュラー出演するなど映像作品へも意欲的に挑戦している。

スミー：宮崎吐夢（MIYAZAKI Tomu）

1970 年生まれ、東京都出身。92 年『冬の皮』以降、大人計画に参加。劇団公演に出演するほか、外部公演への出演や、自身でイベント・ライブの企画・演出を行う。また CD・DVD リリースや、小説・コラムの執筆など様々な分野で精力的に活動。近年の出演作品に、舞台『分身』『ハングマン』『蛇と天秤』『オイディプス REXXX』『AZUKI』『キレイ-神様と待ち合わせした女-』などがある。その他、テレビ『恋する母たち』（TBS）『あのコの夢を見たんです。』（TX）『銀座黒猫物語』（KTV）『破天荒フェニックス』（EX）、映画『友だちのパパが好き』『さよなら歌舞伎町』『SUNNY 強い気持ち・強い愛』『尻待ち』などに出演。

黒ひげ：櫻井章喜（SAKURAI Akiyoshi）

1969 年生まれ、長野県出身。文学座所属。舞台を中心に白井晃、野田秀樹、宮田慶子、河原雅彦、鄭義信、長塚圭史、栗山民也などの演出作品に出演。その他、映像、吹き替えなど幅広く活動。最近の主な舞台として『走れメルス』『ピランデッロのヘンリー四世』『にもかかわらずドン・キホーテ』『カッコーの巣の上で』『トロイラスとクレシダ』『白鯨』『マハゴニー市の興亡』『王将』『プレイヤー』『カリギュラ』『ヘンリー八世』など。新国立劇場では『透明人間の蒸気』『サロメ』『ピグマリオン』『テンペスト』『焼肉ドラゴン』『ヘンリー五世』『リチャード二世』に出演。

公演概要

【タイトル】 ピーター & ザ・スターキャッチャー

【スタッフ】

作 リック・エリス
原作 デイヴ・バリー、リドリー・ピアスン
音楽 ウェイン・バーカー
翻訳 小宮山智津子
演出 ノゾエ征爾

音楽監督 田中 馨
美術 深沢 襟
照明 吉本有輝子
音響 清水麻理子
衣裳 駒井友美子
ヘアメイク 西川直子
ステージング・振付 古家優里
歌唱指導 今井マサキ
アクション 前田 悟
演出助手 吉中詩織
舞台監督 川除 学

芸術監督 小川絵梨子
主催 新国立劇場

【キャスト】

入野自由 豊原江理佳 宮崎吐夢 櫻井章喜
竹若元博 玉置孝匡 新川将人 KENTARO
鈴木将一郎 内田健司 新名基浩 岡田 正
演奏：田中 馨 野村卓史

【会場】 新国立劇場 小劇場 （京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結）

【公演日程】 2020年12月10日（木）～27日（日）

※12月5日（土）、6日（日）にプレビュー公演あり

【料金（税込）】

プレビュー公演 A席4,400円（こども2,200円） B席2,200円（こども1,100円）

本公演 A席6,600円（こども3,300円） B席3,300円（こども1,650円）

※こども（小学生～中学生）は上記こども料金（50%OFF）でチケットをお求めいただけます。

また、ご入場時に年齢を確認させていただく場合がございます。

【一般発売】 11月14日（土）10:00～

※通常の座席配置での販売を予定しております。

※舞台間近の客席の一部に「こども優先エリア」（A席のみ）あり。

小・中学生のお子様とご同伴の大人の方に限り、優先的にご購入可。新国立劇場ボックスオフィス（電話）のみ受付。

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL：03-5352-9999（10:00～18:00）

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

本公演は新型コロナウイルス感染予防、拡散防止対策をとって上演いたします。詳細：https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

* **Z席1,650円** Z席（各日10席）は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。※先着販売後、残席がある場合は、公演当日の開演2時間前からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。* **当日学生割引**
公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。* 新国立劇場では、高齢者割引（65歳以上5%）、障害者割引（20%）、学生割引（5%）、ジュニア割引（中学生以下20%）など各種の割引サービスをご用意しています。

新国立劇場の演劇 広報板

新国立劇場の演劇のさまざまな取り組みをご紹介します。
取り組みについてのお問い合わせもお待ちしております！

ギャラリープロジェクト

一般の方々に向けて、ワークショップや講演などのイベントを実施するプロジェクトです。

○12月 絵本読み聞かせ（動画配信・日程未定）
読み手：入野自由

詳細：<https://www.nntt.jac.go.jp/play/gallery-project/>



観劇サポート

一部公演で耳や目に障害のあるお客様への観劇サポートをご提供しております。

○『ピーター&ザ・スターキャッチャー』観劇サポート公演

耳に障害のあるお客様向け（手持ち型ポータブル字幕機の貸出）

12月20日（日）11:30 公演

目に障害のあるお客様向け（開演前舞台説明会＆リアルタイム音声ガイド）

12月25日（金）13:00 公演／12月26日（土）15:30 公演

*サポートは無料です。要予約。定員あり。*お申し込み方法などの詳細はWebまたはお電話（ボックスオフィス 03-5352-9999）にてご案内します。*障害者手帳等をお持ちのご本人は、チケットが障害者割引料金（20%割引）になります。また、第一種の手帳をお持ちの方は、お付き添い1名様のごチケットが無料になります。

こつこつプロジェクト —ディベロップメント—

一年間、3～4 か月ごとに試演を重ね、その都度、演出家と芸術監督、制作スタッフが協議を重ね、上演作品がどの方向に育っていくのか、またその方向性が妥当なのか、そしてその先の展望にどのような可能性が待っているのかを見極めていくプロジェクトです。

時間に追われない稽古のなかで、作り手の全員が問題意識を共有し、作品への理解を深め、舞台芸術の奥深い豊かさを一人でも多くの観客の方々に伝えられる公演となることを目標とします。

○プロジェクトの流れや第一期の総括を
まとめた「こつこつ新聞」を発行！→



○2021 年春、第二期が始動します！

詳細：<https://www.nntt.jac.go.jp/play/kotsukotsu/>

